

## ★輝く high school★

 ちょっとおじやましませす！

### — 高知海洋高等学校 —

高知海洋高等学校

今回、ご紹介する学校は、自然豊かで土佐式鯉節発祥の地として名高い、伝統ある水産業を営んできた高知県中央部の土佐市にあります。

学校は、それまで県内三地区にあった水産系高校・学科を、平成9年に統合して、土佐湾を望むこの土佐市宇佐町に高知県立高知海洋高等学校として新設されました。

校訓は「天空海闊」を謳い、理想は天空の如く高く気高く、心は大海の如く広く豊かであれという高い理想を掲げています。また、卒業時の生徒像は「協調性があり、行動力のある水産・海洋人の育成」を目標とし、主な取組を「学ぶ」「磨く」「守る」「尊ぶ」の4つを柱とした『船中八策』としてまとめています。

「来てよかった、卒業してよかった」学校づくりを推進していくため、生徒一人ひとりがしっかりとした目標を定め、ゆとりとした歩みのなかでも、確かな一歩を積み重ねることができるよう、日々の教育活動に努めています。

## 53(ゴミ)ピックアップ活動



フィッシング部は、土佐市波川河川敷の清掃活動を、毎年実施しています。特に、ペットボトルやビニール袋、空き缶などが多く回収されます。フィッシング部に限らず、海洋汚染につながる環境問題については、これからも学校のミッションとして取り組んでいきます。



(撮影用にマスクを外しています)



## ちょっと coffee break !

令和4年度における高知県予算は①～④のどれでしょうか？

(難易度★★★☆☆)

- ① 4,621 億円
- ② 4,821 億円
- ③ 5,021 億円
- ④ 5,221 億円

昨年度(2021年度)より186億円(4%)増え、当初額では2004年度以降で最大となりました。

高知県内でこの写真のある場所は①～④のどこでしょうか？

(難易度★★★☆☆)

- ① 高知城
- ② 城西公園
- ③ 五台山
- ④ 高知龍馬空港

第27代内閣総理大臣を務められた人物です。母校である高知追手前高等学校の校長室には、先生の「写真」と「書」が飾られています。その風貌から「ライオン宰相」と呼ばれました。



この問題の答えは①～④のどれでしょうか？

(難易度★★★☆☆)

問題  $6 \div 2(1 + 2) = \square$

- ① 1
- ② 9
- ③ 1、9 (定義不足のため二つ正解)
- ④ 1、9以外の答え

侮ることなかれ！  
何と、多くの数学者を巻き込んで、派閥争いまで発展したすごい問題のようです。ルールなのか、慣習なのか！

## マグロの解体ショー



海洋高校9代目ツナガールによるマグロの解体ショーに大人も子どもも興味津々！



デビュー戦で緊張しましたが、皆さんの応援で楽しくできました！

トークで解体ショーを盛り上げることができました！



ざわいかにさばいています！



約30キロのメバチマグロをさばきます！

JAとさし主催の「みりの祭り」での様子が、機関誌に掲載されました。ツナガールはこれからも地域の皆様のために活動していきます！

## いざ！ 遠洋航海へ <令和4年1月14日(金)～3月14日(月)>

土佐海援丸は、本科生12名、専攻科生7名を乗せ、大海原へ出航。360度、陸が見えない太平洋のど真ん中で、共に学ぶ仲間と2か月間頑張ります。陸上では、決して経験することができない学びの場です。「2ヶ月ですよ！信じられますか？」



家族との別れを惜しみながら、いよいよ遠洋航海スタート。「頑張ろう！」涙ぐむ保護者も...。可愛い子には旅を...




明日から、いよいよ操業スタート。「学校のみならず！期待しちよつてよ。」おっしやあ〜！



これから、約8時間かけて仕掛けた延縄をあげます。「どんな魚がかかっているか、楽しみやねや。」



立派なマグロと記念撮影。「どうなや？マグロの種類は分かるかえ！」


 ちょっといい話を皆さんに！

## 最後の授業で伝えたかったこと！

-先輩校長から聞きました-



四月、学校は新入生を迎え動き出しました。新たな一歩を踏み出す人たちにとって、期待と不安が同居する季節ではないでしょうか。さてそこで、先輩校長から聞いたちょっといい話を紹介したいと思います。

高校生の頃は、親が苦労して自分を育ててくれたことに気付かないことが少なくありません。また、今まで自分一人の力で生きてきたかのように錯覚するものも頃でしょう。このことを教えるのに、一番相応しい機会として卒業式の日を選び、最後の授業をするというものなのです。

式の後、三年生と保護者を視聴覚室に集め、まずは形から整えなくてはいけないということで、後ろに立っている保護者を生徒の席に座らせ、生徒はその横に正座させます。そして、全員に目を瞑らせて話を切り出します。「今まで、お父さん、お母さんにいろいろなことをしてもらったり、心配をかけたりしただろう。それを思い出し

た者もいれば、親子喧嘩をしたり、こんな飯は食えんとお母さんに弁当の文句を言った者もある・・・。」そういう話をしているうちに涙を流す者が出てきます。「君たちを高校へ行かせるために、ご両親は一所懸命働いてきました。そのお金をたくさんたくさん使ったんですよ。そういうことを考えたことがありましたか。学校の先生にお世話になりましたと言う前に、まず親に感謝しなさい。そして、心の底から親に迷惑をかけた、苦労をかけたと思う者は、今、お父さんお母さんが隣におられるから、その手を握ってみなさい。」すると、一人、二人とつながり、最後は全員が手をつなぎます。それを確認したうえで、「その手が、君たちを十八年間育ててきた手です。わかりますか。・・・親の手を、これまで握ったことがありましたか。君たちが生まれた頃は、やわらかい手をしていました。今、ゴツゴツとした手をしておられるのは、君たちを育てるために苦労に苦労を重ねてこられたからです。それを忘れては欲しない。」そのうえでさらに「十八

年間を振り返って、親に本当にごめんなさい、心から感謝すると思う者は、今一度強く手を握りなさい。」という、あちこちから嗚咽が聞こえ始めます。「よし、目を開けなさい。分かりましたか。今日、私が教えたかったことはこのことです。親に感謝する。親を大切に・・・最後の授業はこれで終わります。」部屋を出るとき振り返ると、親子が抱き合っていて涙を流している姿が見えるというものでした。

大変感動的で、何かジーンと伝わってくるものがあります。それぞれにとって、最後の授業で得た教えるは、何物にも代え難い宝物となったことでしょう。

(事務局長 宮川 雅一)



<事務局便り>

## 令和4年 行事予定 (高P連関係 抜粋)

<主催行事>

期日	行事	会場	時間
4月9日(土)	令和3年度会計監査	高P連事務局	10:00~
15日(金)	第1回高知地区総務部長会	高知国際高校	16:00~
5月13日(金)	第5回役員会(令和3年度役員)	心の教育センター	19:00~
7月2日(土)	単P会長研修・定期総会	高知会館	13:00~
8月上旬	第1回役員会	(調整中)	

<関連行事>

期日	行事	開催県等
6月17日(金)	第1回中四国会会長・事務局長会議	愛媛県(松山市)
25日(土)	第1回全国高P連総会・評議員会	東京都(東京ガーデンパレス)
7月26日(火)	第64回中四国地区高P連大会(愛媛大会)	愛媛県(松山市)
8月25日(木)	第71回全国高P連大会(石川大会)	石川県(金沢市 他)
26日(金)		
28日(日)	高知県P T A 研究大会	土佐市(つなで)

次はあなたです！

<リレー・エッセー>

### 「柏島の釣り日記！」 -太公望の至福とは-

釣りは面白い。特に、冬のグレ釣りは戦略性に富んでおり、どの場面を切り取っても太公望たちの釣針談議に終わりはしない。一人で釣るもよし。気の置けない友と釣るもよし。楽しみ方は人それぞれ、釣り人の数だけあるからであろう。

先日、旧知の友と柏島へグレ釣りに行った。久しぶりの釣りということもあり、準備には少々時間がかかった。しかし、これもまた釣りの醍醐味の一つで、自分なりのアプローチの方法を確認する時間であり、至福の時間でもある。夜が明けた海を見て友人曰く、「今日は波、風えいき、絶対に釣れるぜ！」。いつもの聞き慣れた言葉であったが、何度聞いても、早朝の五感には心地よく響く。

いざ、第一投目。遊びとはいえ自分の想像力、知識、感、技能など、全集中することとなる。研ぎ澄まされた世界の一方で、他愛もない話やバカ話などがoffee break 的存在である。スイッチのオンとオフが、同時に全身を走る不思議な時間の始まりである。

が！、、、二投目、三投目と自画自賛の仕掛けを投入するも、手元や竿先に激震が走る気配は一向にない。ウキを変え、ラインを変え、深さを変え、重りを変え、あらゆる経験値を試してみるが、ダメである。友人も然り。磯の上での弁当だけが、心を満たしてくれた。魚との格闘が続れないのが残念だが、海を眺めご飯を口に運びながら、ある人の言葉を思い出した。「3時間幸せになりなかつたら美味しいグレを食べなさい。」「3日間幸せになりなかつたら大きなグレを釣らなさい。」「3年間幸せになりなかつたら大きなグレをバラさない。」「永遠に幸せになりなかつたらテーマをもって釣りに行きなさい。」というものだ。しかし、思い出すも、至福の一時の前では、全無効であった。気が付けば、納竿の時間となっていた。

陸に戻り、服を着替えながらの二人の会話は、迷うことなく「次はどうするあゝ！」であった。二度と来ないという言葉はどこにも存在しない。永遠に幸せなのかどうかはさて置き、「次こそは、@%&・#?~」と、眼下の柏島を尻目に、今日もまた軽いウーラ〜とともに、帰路につくこととなった。 3月某日

(事務局長 宮川 雅一)

残念！ 